

## 「御田植神事」が行われました

5月5日(火・祝)、伊作田稻荷神社にて「御田植神事」が行われました。御田植神事は御田祭ともいわれ、田植えから稲の収穫までの一連の流れを演じる神事で、田辺市の指定無形民俗文化財に指定されています。

境内の四方に竹を立て、しめ縄を張った所を田と見立て、神主がお祓いをし、巫女が豊栄の舞を奉納した後、総代らが「あぜ草刈り」「あぜ塗り」「代かき」などの動作を演じ、田の準備が出来た後は、稲成小学校の6年生が早乙女役を演じ、田植えと稲刈りの動作を行いました。



## 動鳴気峡整備作業を行いました(稲成町内会)

5月17日(日)、稲成町内会の役員など地域の皆さんにご協力いただき、動鳴気峡の整備作業を行いました。当日は生い茂った草を刈り、遊歩道を散策しやすく整備しました。

朝早くからご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



# 稲成公民館だより

## 令和8年6月号

未来へつながる道  
田辺市

【発行】稲成公民館  
【館長】倉谷 修治 【主事】元戎 智美  
【事務所】田辺市東山一丁目5番1号(本庁舎5階)  
【TEL】26-4908 【FAX】24-8323  
【館区の人口と世帯数】(令和8年4月末現在)  
3,143人(男1,495人・女1,648人) 1,555世帯

## 苦肉の策のそのあとは？

稲成公民館長 倉谷 修治

田に水を張り、代掻きが始まると、どこからともなく姿を見せる「ツバメ」。あちらこちらで田植えが始まり、昨年巣立った軒先にせつせと泥を運ぶ姿が見られます。その傍らで田や畑を埋め立て、マンション建築のための工事が並行して進んでいます。それを複雑な思いで見ている私があります。

さて、今どの業界も人手不足が叫ばれており、それを補うために外国人労働者を雇用する企業が増えています。特に介護分野では、日本人だけでは人材が集まらず、外国人材に頼らざるを得ない状況です。彼らは、労働力の確保が必要であることから創設された、「特定技能制度」を活用し、通算5年まで働くことができます。さらに熟練技能を要する特定技能2号となれば、家族帯同が認められ、在留期限の上限がなくなります。介護分野を含めた人材不足が顕著な16分野で、この特定技能制度が活用されています。そもそも彼らの多くは、母国の家族へ仕送りをするために日本にきています。そのため、仕事に取り組む姿勢は私たち日本人が見習いたいほどだそうです。(ハングリー精神がそうさせているのでしょうか)

話は変わって、中東情勢の混迷により調達が懸念される物資の一つにナフサがありますが、印刷用インクもナフサ由来の製品です。そうした中、大手菓子メーカーのカルビーが、「ポテトチップス」などの包装を白と黒の2色刷りに変更すると発表しました。危機を逆手に取り、包装の簡素化に転換したカルビーはあっぱれ!とは思いませんか? ただ、私たち消費者はカラフルなイメージの包装の変貌が楽しみな反面、色で味を識別していたこともあり、すべての味が2色刷りに変わったら、品選に少々時間を費やすかもしれません。

この原稿を書いている5月半ば、真夏日に迫る暑さがここ数日続いています。今年はさらに昨年を上回る気温になるとの予報もあり、最高気温が40℃以上の日を示す「酷暑日」が予報用語に追加されました。この夏、この新語が天気予報で使われることがないよう祈りたいものですね。

さて、令和8年度の公民館事業計画では、夏祭りをはじめ、ソフトボール大会、敬老行事、社会見学と、昨年度の事業を踏襲しつつ、さらに内容を充実していきたいと考えております。昨年度にも増しての皆様のご協力とご参加を宜しくお願いいたします。

## 稲成町内会長 挨拶

### 「町内会の活動に御理解を！」

5月1日に開催されました「稲成町内会総会」で再選されました。今年一年間よろしくお願いいたします。

さて、地域活動を行っていく中で、各種団体といわれていました「青年団」「婦人会」「老人会」「社団法人稲成愛郷会」は、既に時代とともに解散され、今年に入って「稲成弔魂会」も解散しました。今まで、それぞれが活動されて、「稲成町」という地域が動いていましたが、これからは全て「稲成町内会」が皆様の要望を聞きながら、皆様の安心、安全な地域を目指してやっていかねばなりません。町内会が組織として成り立つには、多くの役員の方が必要となりますが、役員のみ手が不足してきています。皆さん、地域の夜が明るいのは、町内会が防犯灯をつけ、その電気料を払っているからです。又、道路がこわれたり、通れなくなったりしたとき、行政へ連絡し、早く修繕してもらえるのも町内会の役目です。

最近集中豪雨が全国的にも多くなっていますが、被害を少なくするため、河川の巡視や、しゅんせつ箇所や、堤防を強くする要望を町内会は行っています。そして、大災害が起きた時に地域の中で助け合うことが非常に大切になりますので、お互いの顔の見えるよう、普段から、文化祭、夏祭り、敬老会、さくら祭、社会見学等を通して、地域の皆さんの交流を図っていきたいと思います。

今年も、以上のような活動を実施する予定ですので、町内会の活動に御理解頂き、町内会へ入って頂いて、是非役員にもなって頂きますようよろしくお願いいたします。

稲成町内会長 山田 能久

### 【令和8年度 稲成町内会役員】

会長	山田 能久	理事（愛郷会）	榎本 哲也
副会長 土木委員長	尾崎 博文	理事（愛郷会）	梅田 昌宏
庶務 会計 荒光区長	西 和彦	理事（愛郷会）	澤田 隆蔵
土木副委員長 谷区長	宮本 健二	監事	宮本 誠士
糸田区長 理事（愛郷会）	服部 修蔵	監事	山田 浩嗣
下村区長 理事（愛郷会）	阪口 喜保	監事	榎本 清孝
谷上区長	高山 弘和	監事	山本 鉄也
馬場平区長	東谷 淳		

## むつみ町内会長 挨拶

この度、むつみ町内会長に就任しました前川 友利（まえかわ ともとし）です。むつみ町内会の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

私は森脇前会長の前に2年間、会長の経験がございます。ですから、1年間の町内会の流れは把握しておりますが、至らないところもあると思いますので、町内の皆様にはご協力、よろしくお願いいたします。

当地域、むつみは、昭和30年代後半に住宅団地として開発された地域です。現在は、「むつみ」という住居表示ですが、当時は「稲成町」でした。小学生は稲成小学校に、中学生は高雄中学校に通いました。これは今でも変わっていません。

私が、むつみに引っ越してきた昭和38年ごろは、出来たばかりの住宅地で空き地も点在していました。子供たちの遊び場はそういった空き地や稲成の山や高山寺でした。私が小学生のころは、同級生も多く、子供たちの声がよく響き渡っていました。

そういったなかで、むつみ町内会ができ、むつみ町内会館（旧）が建設されました。それから60年あまり、今は空き地が少なくなりましたが、子供たちの数も少なくなりました。

令和7年度版の田辺市統計書によりますと、むつみの人口は502人、世帯数は246世帯です（令和7年3月31日現在）。当町は他地域同様、時代とともに高齢の方が多くなり、住民同士のつながりも昔に比べ希薄になっています。そういったなか、どのように助け合いを生み出していくかが課題であります。今後、南海トラフの大地震といった災害が予測されるなか、住民同士のつながりが一層大事になってきます。

少子高齢化、町内会離れといった現状のなか、町内会の運営は、今後どうあるべきかを常に考えているところです。森脇前会長が昨年度の公民館報に寄せたあいさつのなか、「やれるひとが、やれることを、やれるときにする」という言葉がありました。町内会の皆さま方が自分の生活や余暇などを大事にしながらも、町内会活動に関わってもらえるように、工夫を凝らしながら運営できればと思っています。

親世代が設立した町内会を私たちが受け継ぎ、次の世代に引き継いでもらえるようにするとともに、むつみをさらに住みやすい地域にしていきたいと考えています。

今年度、むつみ町内会の役員が入れ替わりました。他の役員・委員の皆様ともども、今年度もよろしくお願いいたします。

むつみ町内会長 前川 友利